



ごみの収集は現在、可燃物が週二回、不燃物は月一回（一部の地区は二回）行っていますが、分別の不徹底や指定ごみ袋以外の袋で出すなど、ルール違反は後を断ちません。また、指定日の前日に出し、犬や猫が荒らしごみがステーションに散乱するなど、近所の方の迷惑にもなっています。

そこで、正しいごみの出し方の徹底をと、指定袋以外のごみ、分

別の不十分なものについて、十一月からまず大篠地区で取り残しを始めました。そして順次、後免、野田、長岡地区へと広げ、三月一日から市内全域に拡大し、違反ごみを出した方には、正しい方法に改めてもらうよう指導しています。

燃えるごみは、廿枝にある香南消掃組合焼却場で処理していますが、ごみの量の増加とともに費用も増大。生ごみは焼けにくく燃料

3月1日から

## ルール違反のごみ

市内全域で取り残し開始



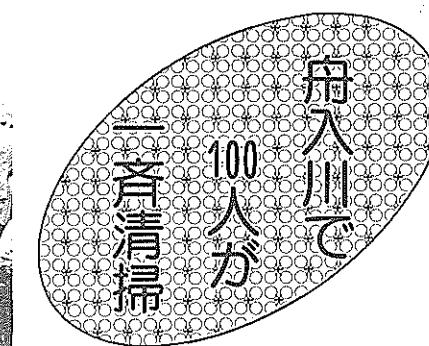
ごみ袋の中には金属類の混入も多い。正しく分別を！

ごみは、指定のごみ袋に入れ  
収集日の日の出から午前6時までに  
正しく分別して出しましょう

香南七カ市町村からの  
ごみは、一日六十トン



一本松の邊では、昨年の五倍のごみ



ごみの多さに驚き

市民の皆さん真剣に考えて！



▲捨てるのは簡単でも、掃じるのは大変です



△捨てられたごみは木切れ、果てはホームトイレまで

川干が始まった三月一日、不法投棄が絶えない舟入用で、流域住民百人が一齊清掃を行いました。場所は、後免西町から高知市境の小篠までの約三キロ。

午前八時から、長靴、軍手姿で、ごみ袋片手に缶やビン類、発泡スチロールなどを拾い集めました。中には、ホームトイレや鳥の死がいた。昨年よりごみは増え、用意したごみ袋は足らなくなる始末。特に篠原一本松近くの坂では「去年の五倍は多い」とあきれるばかり。

何度清掃しても、これでは“いたちごっこ”です。環境美化に対する自覚を、市民一人一人が真剣に考えてみましょう。